

第28期目録委員会記録 No.19

第19回委員会

日時：2003年2月22日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長，木村，白石，原井，古川，増井，室橋，横山

欠席：乙骨，堀井，和中

<事務局>磯部

[配付資料]

- 1 . Transforming AACR2 Part4 Major/Minor Changes (CONSER Homepage <http://www.loc.gov/acq/conser>) (7ページ- A4 , 古川委員プリントアウト)
- 2 . Committee to Study Serials Cataloguing ALCTS Serials Section Changes that May Require a New Record (ALCTS Homepage <http://www.ala.org/alcts/organization/ss/serialscat.html>) (20ページ- A4 , 古川委員プリントアウト)
- 3 . [第13章改訂案]13-0-0222 - 13-8-0222 (40ページ-A4 , 原井委員)
- 4 . NCR13章 現在 (逐次刊行物) / 030222版 (継続資料) 対照表 (50ページ-A4 , 原井委員)
- 5 . 和漢古書を含む第2章案及び関連用語解説案 (37ページ- A4 , 増井委員)

[連絡事項]

- 1 . 今後のスケジュールについて

第13章については、最終案をまとめ、基本的な大きい部分について改訂のポイントをおさえてアナウンスする。また、全体の公開もWebで行い、会合は開かないことも考えられる。

和漢古書の方は、NII のマニュアルは来年度早々に公開の見込みであるが、第2章、第3章についてできれば、図書館雑誌5月号か6月号に和漢古書を含むことによる改訂について文章を載せたらどうか。第2章だけでなく第3、第4章等についても関連する部分の改訂を早い時期に公表することを目指すこととする。和漢古書に関する挿入部分が量的にあまり多くないので、第2、3章は4月半ばまでにまとめたい。

[検討事項]

- 1 . 資料1 , 2 について、古川委員から説明があり、関連して討議を行った。
 - ・ 逐次刊行物にとって、Major/Minor Changesは重要であり、かつ把握が困難なことなので、

その理解のために提出した資料である。次回、ISBD (CR) も含めた分析を行う予定である。新たな記録を作成する場面を減らす傾向の中で、日本の資料にこれをどう反映させるかについてはまだ議論していないが、そのきっかけとしたい。

- ・ 13章の「変更」についてはいくつかの大きな問題がある。
Major/Minorは継続資料中逐次刊行物だけの問題なのか。
- ・ 関連して、更新資料が分割した場合のそのつながりの示し方について討議が行われた。
- ・ ダブリンコアでは、リレーションのクォリファイアにあり電子資料についてはより詳細である。

2 . 第13章について

原井委員が資料 3 , 4 について説明し検討を行った。

- ・ 資料 3 は、前回議事録に従って修正し、あまり大きい変化はない。
参照を入れたが、注記と本文の関連等についての見直しは次回までに確実に行うこととする。また、Major Changesを「重要な変化(変更)」の形に直した(Minor Changesは軽微な変化)。
- ・ 資料 4 は、現在の第13章との比較をまとめたものであり、変更部分の説明のための準備資料である。
- ・ なお、前回議事録の(3)注記についての検討結果がわかりにくく今回修正は行っていないということで、これについて、前回検討に関わる説明及び任意性等について討議が行われた。
 - ・ 注記については、もともと任意のものであり、「注記する」でよいのではないか。その形で不都合があれば、レベルを落とすか任意規定等の扱いをしてもよい。
 - ・ 注記には必須に近いものと各図書館の判断によるものとがあり、その違いは残しておきたい。例えば、新しい書誌的記録を作成する場合の前のタイトルとの関係の注記は必須であるが、更新資料のタイトルの変更についてはその重要性に違いがあると考えられる。
 - ・ 他の章にも影響するものであり、注記を任意規定としては条項を作ってきていない現在のNCRと離れないようにしなければいけない。方針転換になる。
 - ・ 必須か任意かがわかるような区別が明示されないと目録作成者が困る。
 - ・ 注記には、当該書誌的記録に関するものと他の書誌的記録との関わりについてのものがある。
 - ・ 今後注記についてもう少し整理する必要があるので次回に委員長が検討資料を用意する。

・ 13.0通則 第2パラグラフ

「終期を予定する資料であって」を削除する。また、「刊行頻度が表示されているなど の...性質を持つて は いるが...」のように 部分を挿入する。

「及び完結を予定する更新資料...」 「終期を予定する更新資料...」とする。

・ 13.0通則 第4パラグラフ

「第9章とこの両方...」 「第9章とこの章の双方...」とする。

・ 13.0.2.1A

「記録を改める」は、別途新しい書誌的記録を作成するのではなく、データの修正のみを行う、という意味であり、誤解が生じないように文章を整える。

・ 13.0.2.1B (エ)

既にあるものを含むかのように読みとれるので、「2以上の逐次刊行物が 新しい 1つの逐次刊行物に...」のように 部分を挿入する。

・ 13.0.2.3 (継続刊行レベルの記録)

第1章総則等にも関連があるので、そちらにも反映させないといけない。

・ 13.1.1.3 (変化)

「書誌的記録両方」 「書誌的記録の双方」とする。

・ 13.7.3.1A (責任表示に関する注記)

エ) 「書誌的記録両方」 「書誌的記録の双方」とする。

例示中 軽金属研究会(10号-15巻2号-)の末尾の「-」を削除する。

・ 資料種別については、任意規定であるが、変更があった場合は必ず書くこととしている。判断のための重要な要素であるが、NCR全体として任意規定であり、13章のみこれはずすことはできない。また、今後の目録の動きを考えると存続が流動的なエレメントなので、あえて変更は行わない。

・ 更新資料間の関係についても気になるところであるが、今後のメタデータの動きを見ることとする。

・ 「総合タイトルがない場合」が、現実の問題としてあり得ないと考えられるので、第1章に譲り、13.1.3.1A、及び13.1.0.2 (エ)オ)をはずす。

・ 公表に備え、基本的なポイントのまとめ及び対照表からわかるような詳細な箇所についても説明ができるようにしておく。

3. 和漢古書について

増井委員が資料5について説明し、検討を行った。

・ 今回案は、前回検討結果に従い和漢古書について別立てとせず、第2章に入れ込む形にした。番号体系については原則として移動がないようにしている。また用語の統一は検討中である。

・ 2.0.6記録の方法

繰返し記号(踊り字)、判読不可能な文字及び推読文字については、2.0.6.3(文字の 転記)に含め、各々2.0.6.3A、2.0.6.3Bとして挿入することとする。

・ 2.4.3出版年、頒布年等について

「出版年不明」を復活させているが、推定を必ず行う形にしてあったものを復活させたことは問題である。

実際にデータを作成する際、安易にこの形に流れる心配がある。一方で推定出来なければ目録作成者の見識を問われることにもなる。

必要であればこのままにするが、復活させた理由付けをきちんと行い、また例示等は行

わなず、出来る限り推定を行い、「出版年不明」の使用は積極的に勧めるものではないことがわかるようにする。

・2.7.1注記

現在、既存の項目に可能な限り入れ込み、できないものについてはまとめて入れ込んでいる。

後半、ただ列挙してある部分をカテゴリー毎にまとめた方がよい。

- ・文章全体として、フォーマット・文体をNCRの他の部分と調整し訂正する必要がある。
- ・用語解説がさらに多く必要である。

次回委員会

3月22日(土)